

3 研究の成果（本時を中心に）

(1) 指導の実際

① 「体を守る力」のメカニズムを知る

○砂や土がついていない時

白血球・マクロファージ対ばい菌

○砂や土がついている時

白血球・マクロファージ 対ばい菌・砂・土

子どもたちは、マクロファージがばい菌や砂や土を飲み込む場面では驚きの声を上げた。



② 砂・土がついている傷を洗い流す活動

○マジックで色を塗って作った傷を [さっと洗い] と [ていねい洗い] の2種類洗い方で洗いながしてみる

[さっと洗い] は汚れが浮き立つだけで汚れがまだ残っている

[ていねい洗い] は少しゴシゴシ力を入れて、皮膚が少し動くように洗う。



(2) 事例から明らかになったこと

① 「傷」は、児童自身が日常的に体験していることであり、またその最初の大事な手当である「傷口の汚れを水でしっかりと洗う」に焦点をあてたことは日常的・実践的であった。

② 見えないもののメカニズムを [傷の中をのぞいてみる] 子どもに説明する方法として ペープサートを用い製作した教材で、それぞれの動きを持たせながら使用したことで、子どもたちが引きつけられるように見ていた。

③ 途中で傷を洗い流す場面から、担任が自然にT・Tのように授業に入ってくると、児童の中に笑いが起こったり和やかな雰囲気になっていった。養護教諭と担任のコミュニケーションがとても大事である。

からだのことは「養護教諭」、普通の授業は「担任」という捉えが子どもたちの中にもできているので役割を明確にすることは、子どもたちの授業への取り組みがより一層高まっていく。

4 来年度への課題

- ・健康教育は「楽しくてためになる授業」であって、「保健指導」に位置づけていく。
- ・健康教育の広い領域の中でどの部分を取り上げていくのか？誰が中心に指導をするのか？あるいはT・Tでやるのか？など、推進委員が中心になって、それぞれの職種が関わりを持ちながら、様々な研究の形を提案していく必要がある。
- ・養護教諭が実践している「保健指導」を、指導内容・教材の研究、実施時期、時間などから検討する研究をしていくこともよい。
- ・事前に、学習指導要領を読み解いておく必要がある。